

# 金山の投票率が高い理由

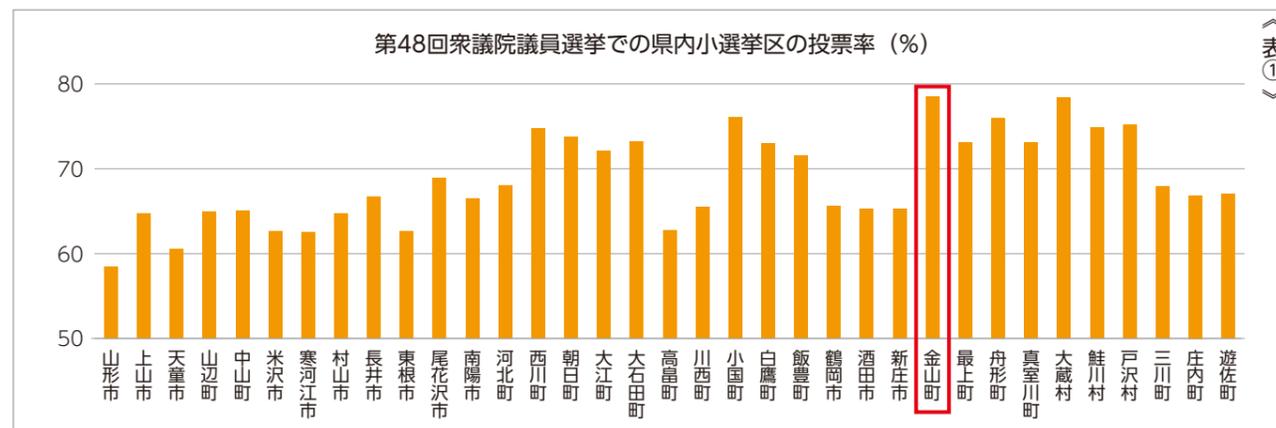
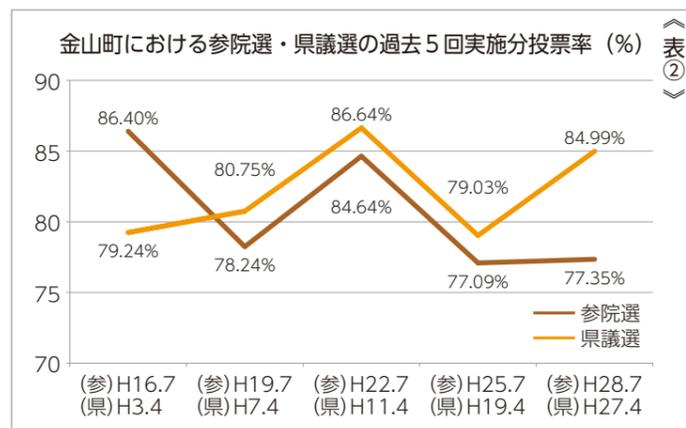
Let's vote!! /

昨年10月に実施された第48回衆議院議員選挙。山形県の小選挙区投票率は64.07%を記録、47都道府県で1位となりました。県内の市町村別に見てみると、最も投票率が高かったのは金山町。実は国政選挙、地方選挙を問わず、当町は以前から高い投票率を誇っています。皆さんの記憶にも新しい選挙権年齢の18歳への引き下げ。新庄南高等学校金山校では、主権者教育に今まで以上に力を入れて取り組み、新たな有権者たちが選挙権を有する意義を考えてきました。本特集では、主に若年層の投票率向上にむけた取り組みを紹介しながら、「金山の投票率が高い理由」を探ります。

## 高く推移する金山の投票率

先に実施された第48回衆議院議員選挙の小選挙区における金山町の投票率は78.44%。表①のとおり県内トップを記録しました。また表②は、参議院議員選挙と山形県議会議員選挙における過去5回分の当町の投票率を示しています（無投票回を除く）。概ね80%前後の投票率で推移しており、いずれも県内上位の水準です。

なぜ金山町では、このように高い投票率を維持しているのでしょうか？



出前講座や新聞を活用した授業、投票関連事務作業の体験など。高校生を対象とした投票率アップの取り組みは各地で様々です。より実際の選挙を意識した、金山校の「模擬選挙・議会」を紹介しします。

# 参政権を有する意義とは—— 本番さながらの体験を

## 自らのマニフェストを提言

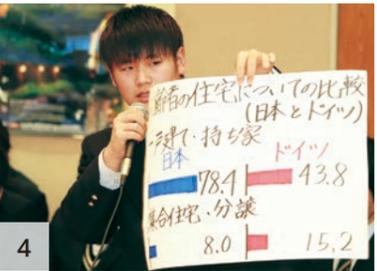
「より良い町づくりをしていく自信とビジョンを持っています。どうか私に清き一票をお願いします——」  
新庄南高等学校金山校（※以下、金山校）で昨年11月に行われた「模擬選挙」。生徒たちを代表して8名の候補者が、およそ80名の全校生徒の前に、立会演説会を行いました。候補者らは、社会科の授業などを通してまとめたマニフェストを、自作のグラフや表を用いて、分かりやすくかつ堂々と説明。その後、実際にひとり一票の投票を行い、高校生議員を選出しました。有権者予備軍である1・2年生も、初めての投票に戸惑いながらも、自分なりの考えで候補者を判断し、大切な一票を投じていました。

## 実際に町が予算化も

公職選挙法が改正され、選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたことを受け、金山校では生徒たちが参政権を有する意義を考える機会になればと、平成27年12月に初めて「模擬議会」を実施。「町の課題を調べ、自分で考えた解決策を、直接町へ提案できたことは、良い機会となった」と社会科の担当教諭として携わる高橋久男先生は話します。実際、この時に一般質問として出された意見の中から、町が予算化したものもあります。高橋先生は当時の手応えを思い出し「自分の提案が実際の町政策になると、生徒たちも喜ぶ。地域や行政との繋がりを実感できれば、選挙への興味もおのずと湧く」と語ります。



▼1 模擬議会では町執行部も真剣に回答。▼2 メモをとりながら回答を聞く高校生議員たち。▼3 議長には柿崎真菜さんを選出。スムーズに議事を進めた。▼4 資料を用いて分かりやすい一般質問となった。



## 実際の選挙さながらに 今後も積極的な主権者教育を

昨年10月、第48回衆議院選挙が実施されました。選挙権年齢が18歳以上に引き下げられて以降、二度目となる国政選挙の実施を受け、模擬議会に加え、金山校で新たに取組まれた模擬選挙。これには町選挙管理委員会が全面的に協力しました。実際の選挙で使われる記載台や投票箱がセッティングされた教室はさながら投票所のようにリアリティが大事、と高橋先生は微笑みます。投票管理者や投票立会人も生徒たちから選出し、本番と同様の流れ

▼1 全校生徒が参加した模擬選挙。▼2 候補者たちは図やグラフを駆使し、自らの政策を訴えた。▼3 真剣に耳を傾ける生徒たち。▼4 社会科の授業などで事前学習はしっかりと。▼5 実際の選挙と同様の流れで投票が行われた。▼6 記載台も本物を使用。▼7 金山ならではの木製の投票箱。▼8 投票管理者も生徒から選出した。



で投票を行いました。生徒たちも「投票するイメージが湧いた。18歳になったら、実際の選挙にもぜひ行きたい」と好感触。主権者意識は、着実に生徒たちに浸透しています。県内各地でも、主に高校生を対象とした投票率アップに向けた多くの活動がなされています。しかし、模擬選挙と模擬議会を結びつけた、金山校のこの活動は画期的とのこと。一連の取り組みを通して、生徒たちは自分が生み出した町への理解を進め、徐々に興味範囲も広がってきているようです。「生徒たちも、積極的に新聞を読み始めたことには驚いた」と高橋先生

は目を丸くし、取り組みの成果を実感したと話します。ちなみに先の衆議院選挙において、在校する有権者の投票率は100%、と続け笑みを浮かべます。未来を担う金山の若者に頼もしさを感じる数字です。金山町の投票率の高さについて、高橋先生は「行政の指導の効果も大きいと感じる。選挙前に町から全戸配布されるチラシは授業にも活用した」と行き届いた町の周知活動を評価します。これからも町と金山校とが連携して、積極的に取り組みを行うことにより、若者の投票率の更なる向上が図られていくことでしょう。

## 《 Interview ① 》

新庄南高等学校金山校  
社会科教諭  
高橋 久男さん(板橋)

## 町の取り組みを知ることで 地域や社会に興味を沸かす

選挙権年齢の引き下げにともない、平成27年12月に初めて開催した「模擬議会」。生徒たちに参政権を有する意義や一票の大切さを考えてもらう良い機会となりました。二度目となる今回は、より学習を深めようと、生徒代表の候補者らの立会演説会を含めた「模擬選挙」を実施。それぞれの政策を共有してから、模擬議会に臨みました。

授業のカリキュラム上、地方自治・選挙の分野は通常2時間。しかし金山校では、生きていくうえで必要不可欠な内容であると捉え、10時間を充てました。広報かねやまや議会だよりを活用し、まずは金山町の課題を見つけるところからスタート。話し合いを重ね、最終的に興味のある分野に分かれて8つの政策を作りました。

一連の学習を通して、生徒たちが「金山町でもこんなに良い取り組みをしているのだ」と気づいてくれた場面がありました。生まれ育った金山町を誇りに感じることは、地域や社会への関心に繋がります。これからも、金山校ならではの「模擬選挙・議会」を継続し、投票率向上の一助となればと思います。

政治参加には欠かせない当事者意識が確実に育まれています。一方で、高校卒業にともなう進学や就職など、環境の変化を主な理由とする「19歳の投票率低下」が課題となっています。先の衆議院選挙における県内の投票率をみても、18歳が58・28%、19歳が

投票率は義務ではなく権利。最終的に投票するかどうかは、本人の意思に委ねられます。そう考えると、金山の投票率が高い理由は、町民の皆さんが持つ、社会や政治に対する高い関心度にほかなりません。いま、金山の若年層にもじわじわと浸透しつつある意識が、投票率の向上とともに、今後の町づくりに変化をもたらしてくれる

金山の投票率が高い理由

本特集では、若年層の投票率向上の取り組みとして、金山校の積極的な主権者教育を紹介しました。この根底には、平成18年に町が制定した「金山町自律のまちづくり基本条例」の考え方が垣間見えます。第12条では「満20歳未満の青少年及び子どもは、それぞれの年齢に相応しい町づくりに参加する権利を有する」と規定されています。高校生という時期に自身が生まれ育った町の良さ、あるいは課題を見つめることはとても重要。更には、下のよう「模擬選挙・議会」という形で町づくりに参加することで、社会全体の興味に繋がります。「たった一票だけど、これで社会が変わるかもしれない」。一票の重みを、身をもって体験した金山の若者たちには、政治参加には欠かせない当事者意識が確実に育まれています。

35・93%と大きく差が開いている状況。年齢別の投票率は20〜24歳が最も低くなっています。金山町にとっても、こういった状況は例外ではありません。投票率は政治への関心を示すバロメーターと言われます。金山町の投票率は、国政選挙や地方選挙など、多くの選挙で県内上位の水準で推移してきました。町では選挙の実施に際して、期日前投票を周知するチラシを全戸配布したり、行政放送を用いて投票を促したり、投票率向上にむけた取り組みを行ってきました。しかし、それらはどの市町村でも共通して取り組んでいることです。

課題は20歳代の投票率 世代を超えた取り組みで目指すは80%



《 Interview ② 》  
金山町選挙管理委員会  
委員長  
星川 昭男さん(十日町)

金山町の投票率の高さは、町民の皆さんが政治や選挙に関心が高いことの表れだと感じています。皆さんが一票の重みを認識し、「投票することが当たり前」と考える方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

町選挙管理委員会では、行政放送での投票呼びかけや周知チラシの全戸配布など、様々な啓発活動を行っています。投票所へ来ることのできない方への対応も含め、投票率向上にむけて取り組んできました。委員についても研修などの場には積極的に参加、研鑽を積んでいます。また、投票率向上とともに投開票にミスが無いよう、投票日当日は全投票所を巡回しています。

新庄南高等学校金山校での、模擬選挙や模擬議会はとても良い取り組み。加えて、小・中学生を対象とした啓発活動も必要だと考えます。その一つが「明るい選挙啓発ポスター」の取り組み。幼い頃から選挙への関心を醸成することは重要です。また、その親にあたる若年層の投票を促す効果もあるでしょう。課題である20歳代の投票率アップにも繋がるのが期待できます。

いずれの選挙でも目標とする投票率は80%。今後も町民の皆さんが投票しやすいような環境を整えるため、様々な取り組みを行っていきます。

※星川昭男氏 平成15年から町選挙管理委員  
平成23年から同委員長

思いを形にするために——  
高校生議員 8名が一般質問

6次産業化の推進、若者の定住化、伝承野菜のブランド化、子育て世代の支援——。投げかけられた質問は町の課題を的確に捉え、かつ高校生らしいフレッシュな意見ばかり。生まれ育った町を知り、関わりを持つことが、社会全体への関心にも繋がります。



たいせい 高橋大海 議員

若者の定住へ向けて誇りの持てる働く場を

金山町の人口は年々減少傾向にあり、就業の場が少ないことも、その要因の一つと考えられる。例えば、金銭面や税の面で支援することで進出する企業もあるのではないかと。また、電気自動車などの未来に繋がる部品を製造する工場の誘致なども、魅力的な策であると考えます。



しょうた 伊藤翔太 議員

住民の命を守るために屋内用スピーカーの設置を

現在の町内放送は屋外にスピーカーが設置されているため、窓を締め切っている冬場は、放送が特に聞こえにくくなる。金山町でも過去に、大規模な災害が発生している。仮に今後発生した場合、住民の命を守るために、各家庭に屋内用スピーカーの設置が必要と考える。



りくと 栗田陸斗 議員

SNSでの情報発信で移住者受け入れの強化を

今後、SNSによる町のPRが重要と考える。SNSは人と人との繋がりを維持・促進する様々な機能もあり、町の情報発信の一つの手段になりうる。また、高齢者向けには除雪の手間が省け、管理がしやすい集合住宅が必要。幅広い世代の定住が町の振興には必要と考える。

人口減少の打開策 子育て世代への支援を

人口減少対策として、子育て世代の不安を軽減することが、まずは人口の現状維持に繋がるものと考えます。出産祝い金の充実や、町立金山診療所への産婦人科の開設など、多角的な方策が必要だ。また、町唯一の高校である金山校に入学した生徒への支援も必要と考える。



まさき 丹雅紀 議員



みちゆき 伊藤道幸 議員

減反政策廃止を受けて6次産業化の推進を

平成30年度の減反政策廃止を受けて、農家が一斉に米を作ることは避けなければならないと考える。生産量の拡大によって値崩れを起こし、米価が暴落する恐れがあるからだ。今までの休耕田を野菜の栽培に転換するなど、6次産業化の推進を図る必要があると考える。



やすなり 渡部恭成 議員

グリーンツーリズムなど観光産業のさらなる振興を

金山町への観光客数は、一時減少傾向にあったが、平成26年度以降増加している。しかし、このまま増加が続くとは限らない状況にある。新たな観光地の建設、グリーンツーリズム等を取り入れた観光産業に、より力を入れていくことが重要であると考えます。



みらい 斉藤美来 議員

観光面での活用も伝承野菜のブランド化を

金山町には伝承野菜として、地域の人々が古くから守り、受け継いできた漆野いんげんと吉田カブが残っている。町の財産として、食材として十分に活用するとともに、地域おこしの一環として、また観光面での活用も視野に入れながら、PRしていくことが重要だと考える。

高齢者が安心して楽しく在宅介護の充実を

現在、金山町における65歳以上の高齢者の人口は約1,800名であり、高齢者が安心して楽しく暮らせる町づくりが必要不可欠である。新たな特別養護施設の開設を支援するだけでなく、各家庭における在宅介護が十分に行える仕組みを構築していく必要がある。



ゆうと 西田侑叶 議員